

稲作情報

(傾穂期～登熟期の管理)

令和8年度 第4号

令和8年8月18日発行、福島県会津農林事務所喜多方農業普及所、JA 会津よつば、喜多方市、北塩原村、西会津町

斑点米カメムシ類防除の徹底と、適期刈取で品質向上を図りましょう！

生育状況

水稻作柄解析試験調査結果(会津地域研究所 7/28 時点)

品種名		草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉齢(葉)	葉色 (SPAD値)
コシヒカリ	本年	98.1	647	12.3	32.9
	平年	86.0	586	13.2	32.5
	平年比	114	111	-0.9	0.4
ひとめぼれ	本年	94.2	672	12.5	36.0
	平年	92.7	606	12.9	34.7
	平年比	102	111	-0.4	1.3
天のつば	本年	84.0	634	12.5	37.4
	平年	86.0	582	12.3	35.6
	平年比	98	109	0.2	1.8

移植日: 5/20、栽植密度: 20.8株/㎡

1か月予報

仙台管区气象台(8月6日発表)

- ・向こう1ヶ月は気温の高い状態が続く見込みです。
- ・平均気温は高い確率 50%、降水量は少ない確率 50%、日照時間は多い確率 40%です。



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 出穂後の水管理

- ・ 出穂後7日間(開花期)は水を必要としますので湛水管理(花水)を行いますが、その後は間断かんがいまたは飽水管理で水温の上昇を抑えて根の活力維持を図り、開花の25日後ごろまでは場が白く乾かないように注意しましょう。
- ・ 登熟前半(出穂後20日間)の平均気温が26℃以上になると白未熟粒が増加し品質低下が懸念されます。また、早期落水は未熟粒の増加や整粒歩合の低下を招きます。落水は出穂30日後を目安に行いましょう。

3 病害虫対策

○斑点米カメムシ類防除

- ・ 福島県全域で斑点米カメムシ類発生注意報が発令されています。適期防除により斑点米の発生を抑えましょう。玄米1000粒に2粒あると落等します。
- ・ 粉剤や液剤による防除適期は、乳熟期(出穂7～10日後)です。その後も発生が見られる場合は、7日おきに追加防除を行いましょう。また、出穂後はカメムシ類を水田内に追い込むことになるので畦畔の草刈りを控えましょう。

表 斑点米カメムシ類防除の例

薬剤名	使用時期	使用量
スタークル粒剤	収穫7日前まで	3kg/10a
スタークル液剤 10	収穫7日前まで	60～150L/10a (1000倍希釈) 無人航空機の場合 0.8L/10a(8倍希釈)
キラップ粉剤 DL	収穫14日前まで	3～4kg/10a



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ

4 収穫、乾燥・調製

(1) 適期刈取

- ・ 高温時は登熟が早まるとともに、刈遅れると胴割粒が発生し品質が低下します。

刈取時期の目安・・・概ね出穂後40～50日で、出穂後の積算気温が950～1050℃に達し、籾の黄化率(1穂あたりの黄色くなった籾の割合)が80～90%になった時期です。立毛中の籾水分は25%が刈り取り開始の目安です。

- ・ 積算気温が1200℃を超えると胴割粒の発生が急激に増加しますので注意してください。
なお、天のつぶは収穫期になっても穂軸に緑色が残る場合があるため、注意が必要です。

【品種別刈取適期の出穂後の積算気温の目安】

ひとめぼれ：950～1000℃、天のつぶ：1000℃前後、コシヒカリ：1000～1050℃

【今年の主な品種の出穂期】 **※平年より出穂がやや早まっています！**

ひとめぼれ：7月25日頃、天のつぶ：7月31日頃、コシヒカリ：8月1週目頃

【出穂日と積算気温到達日の予想】

出穂日	950℃	1000℃	1050℃	1100℃
7月20日	8月28日	8月30日	9月1日	9月4日
7月25日	9月3日	9月5日	9月7日	9月10日
7月31日	9月9日	9月12日	9月14日	9月16日
8月5日	9月15日	9月18日	9月20日	9月23日
8月10日	9月21日	9月24日	9月27日	9月30日

※8月4日までは実測値（日平均気温）、以降は平年値で積算。アメダス喜多方のデータを使用。

(2) 乾燥・調製

- ・ 乾燥温度は、籾水分25%で送風温度40℃以下、乾燥速度（乾減率）は毎時0.8%を目安とし、仕上げ水分は15%にしましょう。また、籾水分のバラツキを解消し過乾燥や胴割による品質低下を防ぐため、二段乾燥を励行しましょう。

5 その他

- ・ 雑草イネが発生した場合は、出穂後2週間頃までに抜き取り、ほ場外へ処分しましょう。
雑草イネの特徴・・・①出穂期や草丈が違う、②籾の色が褐色～黒色、③籾の先端や芒が赤い等
- ・ 稲わらのすき込みは、秋に行うと腐熟が進み移植後の土壌還元が軽減されます。秋耕を実施する場合は、収穫後できるだけ早く行い、稲わらの分解を促進させましょう。
- ・ 今年度も市町村毎に1点の玄米のモニタリング検査を実施します。出荷自粛が解除されるまで販売は行わないでください。実施状況は福島県水田畑作課のHPから確認できます。

※ **熱中症に注意!!** 暑い時間帯の農作業を避け、こまめに水分補給をしましょう。
農薬は、使用回数や使用量等に留意し、ラベルをよく確認して使用しましょう。
水は貴重な資源です。用水のかけ流しは控えましょう。

★ 本情報の内容や米づくりに関する問い合わせ・相談はこちらへどうぞ

会津農林事務所喜多方農業普及所

TEL 0241-24-5743

J A 会津よつば 喜多方営農経済センター営農振興課

TEL 0241-21-1801